

小型動力ポンプの部競技要領

1 基本事項

- (1) 人 員 1 チーム指揮者以下5名（男女問わない）、内1名は補助員とする。
- (2) 出場順位 各競技の出場順は、Google フォームでの参加申込み順。
- (3) 準 備 品 小型動力ポンプ一式
吸管1本（2本のものは事前に結合しておく）
ホース65mm3本（1本の長さが18m以上）
とび口1本
手袋（材質は問わないが統一したもの）※1
ヘルメット（統一したもの）※2
事務局準備品 ゼッケン
筒先（ノズル口径23mm）
※1※2について、無い場合は事務局が貸出します。

(4) 審 査

- ア 計時は、注水操作を100分の1まで計測する。
- イ 注水操作の所要時間は、指揮者の「操作始め」の「め」から標的が全て倒れたときまでを計測する。
- ウ 注水所要時間1秒につき1点の減点。所要時間減点と審査減点を合計し、持点200点から合計点を引いた点数をチーム得点とする。得点の大なるものを優位とする。
- エ 同点の場合は、審査減点の少ないチームを優位とする。

2 協定事項

- (1) 競技開始前
競技者はヘルメット、ゼッケン、手袋を着用する。
- (2) 機 器 材
 - ア ポンプ放口の向きは左右いずれでも良い。
 - イ 控え綱の太さ、長さは自由とする。
 - ウ ポンプ始動はセル、引き綱いずれでも良い。
 - エ ポンプ放口は閉めておく。
 - オ 吸口キャップは閉めておく。
 - カ ポンプ圧力は0.4MPa（4kg/cm²）以下とする。
- (3) 操 作 員
 - ア 指揮者は、筒先員を兼ねるものとする。
 - イ 1番員は、伝令および筒先の補助を行う。

ウ 2 番員は、機関員の補助およびとび口要員とする。

エ 3 番員は、機関員とする。

オ 補助員は、吸管の補助を行う。

3 減点項目

- | | |
|---|---------|
| (1) 規律、士気（全般を通し） | － 5 点 |
| (2) 取扱粗暴、器具落下 | － 5 点 |
| (3) 延長ホースがコースから逸脱した | － 5 点 |
| (4) ホース、吸管の金具の引きずり（1 m以上） | － 5 点 |
| (5) ホース結合、筒先結合の時両手で結合し引いて確認しない
（左右いずれかの足でおす金具部の根元を踏んで結合する） | － 5 点 |
| (6) 「操作一始め」の号令中に行動した | － 3 点 |
| (7) 伝令位置不適（放水始め） | － 5 点 |
| (8) 伝令員の「放水始め」を受ける前に放口を開き放水した | － 1 0 点 |
| (9) 筒先員が注水線より前に出て放水した | － 5 点 |
| (10) 控え綱をポンプの一部に結着していない
（結びは自由であるが手で引っ張って外れないこと） | － 5 点 |
| (11) ポンプ圧力 0. 4 MPa（4 kg/m ² ）を超えて放水した | － 1 0 点 |
| (12) 係員の警笛と旗合図の前に行動した | － 5 点 |
| (13) 伝令位置不適（放水止め） | － 2 点 |
| (14) その他動作を省略した（タイムに関すること） | － 5 点 |
| (15) 他人の操作をした | － 5 点 |
| (16) 競技中に転倒した（両手や尻もちをつくなど明らかな転倒） | － 1 0 点 |

4 服 装

チーム統一した服装とする。（動きやすい服装とし、長袖が望ましい）

5 失 格

操法実施中、隊員に不測の事故（負傷者の発生、揚水不能、ホースはずれ等）が発生し、競技の続行が不可能と認められる場合は、9 0 秒を経過した時点で審査長の判断により競技を中止する。

小型ポンプの部 実施要領

㊦ - 指揮者 ① - 1 番員 ② - 2 番員 ③ - 3 番員

実施項目	実 施 要 領
待 機	指揮者 係員の指示により、待機線上に操作員を右から①、②、③の順に整列させ、①の右 1. 5 m 位置で、整列休めの姿勢で待機する。 各隊員 待機線上に一直列横隊の隊形で、整列休めの姿勢で待機する。この場合②が小型ポンプ中央になるようにする。 補助員 水槽後方で、整列休めの姿勢で待機する。
集 合	指揮者 係員の警笛と白旗の合図により、気をつけし、かけ足で集合指揮位置に停止、「集まれ」と号令して各隊員を集合させる。 各隊員 ㊦の「集まれ」の号令で気をつけし、かけ足で集合線上に②が小型ポンプ中央に正対し、一直列横隊の隊形で②を基準に自主整頓を行い（自主整頓は、①を除く各隊員は右手を腰にあて、ひじを側方に張る。頭は②は前方、①は左、③は右に向けて整頓）集合する。
点 呼	指揮者 各隊員が集合線に集合したならば「番号」と号令する。 各隊員 ㊦の「番号」で①から順次各自の番号を呼唱する。
開始報告	指揮者 集合指揮位置から後方に向きを変え、かけ足で受令者の前方 5 m の位置に停止し、受令者に挙手注目の敬礼を行い「〇〇自衛消防隊（〇〇自主防災隊）ただいまから小型ポンプ操法を開始します。」と報告し、挙手注目の敬礼を行った後、後方に向きを変え、かけ足で集合指揮位置へ戻り、各隊員に相対して停止する。 各隊員 ㊦の開始報告中は、気をつけの姿勢で待つ。
想定付与	指揮者 「火点は前方の標的、水利はポンプ後方の防火水槽、手びろめによる二重巻きホース一線延長」と各隊員に想定を付与する。 各隊員 気をつけの姿勢で想定を受ける。

定 位	指揮者 「定位につけ」と号令し、各隊員の行動を監視する。 1 番員 かけ足で、筒先のおおむね中央に正対するよう停止する。 2 番員 かけ足で、吸管のおおむね中央部左側で火点に向かって停止する。 3 番員 かけ足でポンプ左側に沿って進み、ポンプ前方中央部の位置で火点に向かって停止する。
第 1 線延長	指揮者 (1) 各隊員が定位についたならば、直ちに「操作一始め」と号令する。 (2) ホース延長 ③の「よし」の合図で発進し、ホースの外側を通して筒先位置にいたり、筒先を背負い、さらにホース（第3ホース）を肩に乗せ、進行方向に向きを変えて発進し、第1と第2ホース延長距離を考慮して火点に向かって前進し、第3ホース延長地点にいたり、第3ホースを肩からおろして地面に立て展張する。次いでおす金具を左足近くに置き、筒先を第3ホースと両手で結合して確認し、火点側へ1歩踏み込み注水姿勢をとる。①が第2ホースを延長し、第3ホースに結合して姿勢を正した時点で、①に対し「放水始め」と合図、火点に向かって前進し、注水線手前で筒先を抱え込みながら余裕ホースを取り、火点に向かって注水姿勢をとり、標的（2箇所）に向け注水する。 1 番員 (1) ホース延長 ③の「よし」の合図により、第1ホースを展張に便利な位置で地面に立て展張し、おす金具近くを折って搬送ホースの近くに置き、めす金具を持ち上げ、おおむね2mの余裕ホースをとった後、めす金具を両手で持って放口に結合し確認する。続いて第2ホースを肩にかつぎ、第1ホースのおす金具を手に持ち、展張ホースの左側に沿って延長し、火点に向かって前進する。第2結合実施場所で、第1ホースのおす金具をその場に置き、第2ホースを地面に立て展張し、第2ホースのおす金具近くを折って搬送に便利な所に置き、第1ホースと第2ホースを結合し確認する。次いで第2ホースのおす金具を手に持ち、延長ホースの左側に沿って延長し、第3ホース結合実施場所にいたり、第2ホースのおす金具をその場に置き、第2ホースと第3ホースを結合し確認して、火点の方向に向きを変え、気をつけの姿勢をと

る。続いて㊦の「放水始め」を復唱し、後方に向きを変えて発進し、延長ホースの左側に沿ってポンプ方向に前進する。

(2) 放水開始の伝達

伝令停止線を越えて③に相対して停止し、右手を垂直にあげて「放水始め」と③に伝達し、③が復唱の手を下ろした後に右手をおろし、後方に向きを変えて発進し、延長ホースの左側に沿って最短距離で㊦の1歩後方にいたり、(左足を1歩踏み出した姿勢)「伝達終わり」と合図する。

2 番員

(1) 吸管操作

③の「よし」の合図で、ストレーナ部付近の吸管を両手で持ち上げ③と協力して吸管がよじれないようにしてポンプ後方に伸長し、その場に置き、ポンプ方向に向きを変えて発進し③の2歩後方の位置にいたり、右足で吸管をまたいで両手で吸管を持ち、両足のふくらはぎで吸管をはさみ③の吸管結合の補助を行い③の「よし」の合図で両手両足を吸管から離し、ストレーナ方向に向きを変えて発進し、ストレーナ付近の吸管左側にいたり、両手で吸管を持ち上げ、③の「よし」の合図で③と歩調をあわせて、吸管投入に便利な位置まで進み、吸管をその場に置き、吸管控綱をとりはずし(控綱を固定しておく輪ゴムはそのまま藤かごまたは吸管に付けたままとする)脇に置き、一方の手で控綱の根本と端末を持ち、他方の手で吸管を持って立ち上がり「よし」と合図して、③と協力し吸管を水利に投入する。続いて吸管控綱の端末を手に持ってポンプ方向に向きを変えて発進し、吸管の左側に沿ってポンプ後部にいたり、吸管控綱をポンプ左側のステーの一部に結着する。

(2) とび口搬送および部署要領

控綱を結着後、とび口柄中央部を手に持ち、立ち上がると同時に脇下に抱え、かけ足で発進し、延長ホースの左側に沿って最短距離で破壊地点にいたり、一方の手で柄の中央部を、他方の手で後部を持って上方おおむね45度の角度でとび口を構える。

3 番員

(1) 吸管操作

㊦の「操作一始め」の号令で「よし」と合図し、吸管にいたり結合金具近くの吸管を両手で持ち上げ、②と協力してよじれないようにして結合金具が吸口に結合しやすい位置に来るように搬送してその場に置く。続いて吸口覆冠をはずした後、吸管をまたぎ、吸管の結合金具を両手で持つと同時に両足ふくらはぎで吸管をはさみ、吸管を吸口に

	あわせ②の補助で吸口に結合し「よし」と合図し、両手両足を吸管から離し、吸管中央部左側にいたり、吸管を両手で持ち上げ、「よし」と合図し②と歩調をあわせて吸管投入に便利な位置まで進み、②の投入合図の「よし」で静かに投入補助する。続いてポンプ方向に向きを変えて発進する。 (2) 送水準備 直ちにポンプのエンジン始動を行い、真空ポンプレバーを操作し計器に配意しながらスロットルバルブを操作して揚水を完了する。続いて余裕ホースの修正を行い、第1ホース延長方向に向かって姿勢を正し、放水開始の伝達を待つ。 (3) 放水開始および送水操作 ①の「放水始め」の伝達に右手を真上にあげて「放水始め」と復唱し、右手を下ろして、一方の手で放口コックを全開するまで徐々に開き、同時に計器に配意しながら他方の手でスロットルバルブを操作し、適正圧力を確保した後、第1ホース延長方向に向かって姿勢を正す。 補助員 ②が吸管投入後、浮き上がらないように押える。
放水中止	指揮者 係員の警笛と赤旗合図で「放水止め」と号令し、①が③に放水中止の伝達を終わって注水部署に戻り、①の「伝達終わり」の合図で、筒先を火点方向に向け静かにその場へ置き、左足を右足に引き付け、姿勢を正す。 1番員 ④の「放水止め」と号令を復唱し、身体を起こして後方に向きを変えて発進し、延長ホースの左側に沿って第2結合部のポンプ側で③に相対して停止し、右手を横水平にあげて「放水止め」と③に伝達し、③が復唱の手を下ろした後、右手を下ろし後方に向きを変えて発進し、延長ホースの左側に沿って④の1歩後方で停止して、「伝達終わり」と合図する。 2番員 ①の「伝達終わり」を確認後、とび口が前方に向くよう静かにその場に置き、左足を右足に引き付け、姿勢を正す。 3番員 ①の「放水止め」の伝達に右手を横水平に上げて「放水止め」と復唱し、右手を下ろし計器に配意しながら1方の手でスロットルバルブを操作し、他方の手で放口コックを除々に閉じて、ポンプのエンジン

	を停止する。次いで第 1 ホース延長方向に向かって姿勢を正す。 補助員 ③がエンジン停止の後、吸管を水槽より引き上げ、各隊員が集合線に集まれるように配意し静かに置く。（補助員は以上で解散する）
収 納	指揮者 係員の警笛と赤旗の合図で、㊦は①の方向に向きを変え、「おさめ」と号令し、①が後方に向きを変えて発進すると同時に㊦も発進し、集合指揮位置で各隊員に相対して停止する。 1 番員 ㊦の「おさめ」の号令に「よし」と呼唱し、まわれ右をし、かけ足で発進し、集合線に集まる。 2 番員 ㊦の「おさめ」の号令に「よし」と呼唱し、まわれ右をし、かけ足で発進し、集合線に集まる。 3 番員 ㊦の「おさめ」の号令に「よし」と呼唱し、放口側へ 1 歩踏み出し両手で第 1 結合を離脱しホースを伸長させた後、集合線に集まる。
身体、服装 の点検	指揮者 集合指揮位置で、負傷有無および服装の乱れを点検し整える。 各隊員 集合線で、負傷有無および服装の乱れを点検し整える。
点検報告	指揮者 各隊員が集合線に整列した後「点検報告」と号令し、各隊員の点検結果の報告に対しそれぞれ「よし」と呼称する。 各隊員 身体、服装の点検終了後、②を基準に自主整頓し、㊦の「点検報告」の号令で①から③まで順次㊦に対し「○番員異常なし」と報告する。
終了報告	指揮者 集合指揮位置から後方に向きを変え、かけ足で受令者の前方 5 m の位置で停止し、受令者に挙手注目の敬礼を行い「○○自衛消防隊（○○自主防災隊）、小型ポンプ操法を終了しました。」と報告し、挙手注目の敬礼を行ったあと、後方に向きを変え、かけ足で集合指揮位置で各隊員に相対して停止する。 各隊員 ㊦の終了報告中は、気をつけの姿勢で待つ。

解 散	指揮者 各隊員に対し「わかれ」と号令し、各隊員に答礼し解散させる。 各隊員 ④の「わかれ」の号令により、一斉に指揮者に対し挙手注目の敬礼を行い解散する。
器具収納	ホースおよびとび口の収納は指揮者が集合指揮位置に向かって発進したならば各チームでかたづける。なおホース収納時は排水に配慮すること。またポンプおよび吸管は解散後かたづける。